

風景に呼応する市民に開かれた公共施設

二本松市城山市民プール

福島県二本松市

設計・監理／関・空間設計
施工／菅野・ヤマニ特定建設工事共同企業体



プール 樹形の鉄骨柱が木構造現しの屋根を支える

風景に呼応する市民に開かれた公共施設

本計画は、東日本大震災による放射能汚染の影響で福島県内の子どもたちの屋外活動が制限を受けている状況から、全ての市民が安全・安心に健康増進を図ることができる屋内プールの整備計画である。

計画地は二本松市の霞ヶ城公園運動施設区の一角にあり、二本松城跡周辺の歴史景観地区に隣接している。この場所に屋内市民プールを計画するにあたり、「二本松城跡」を設計におけるイメージの拠りどころとして、周辺環境に調和したデザインを目指した。段差がある敷地形状を最大限活かした計画とし、市民が気軽に立ち寄れる場所として、周

囲の風景と調和した植栽や広場を整備することで、公園のような空間として施設全体をデザインしている。

建物は、平面及び断面的に不整形で複雑な地形と馴染んだデザインとし、周辺環境と一緒に感のある屋根形状とした。外壁は透明感がありながら、内外の視線や熱負荷低減に配慮したストライプ状のスクリーンになっている。組木細工にも似た天井からは木漏れ日のように光が落ち、木材の温かみを感じることができる。また、落ち着いた印象を与える外部に対して、内部は色彩豊かなシーケンスが展開し、人々の活動があふれ出すような明るく居心地の良い魅力的な空間が広がっている。

(江田紳輔／関・空間設計)



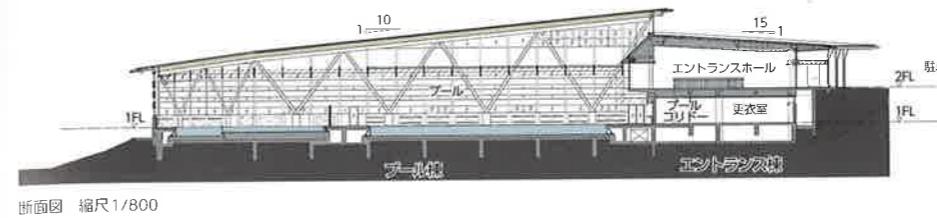
北東側より外観を見る 敷地は起伏のある斜面に囲まれ、山と平地が接する複雑な地形となっている。建物右上には、二本松城本丸跡が見える



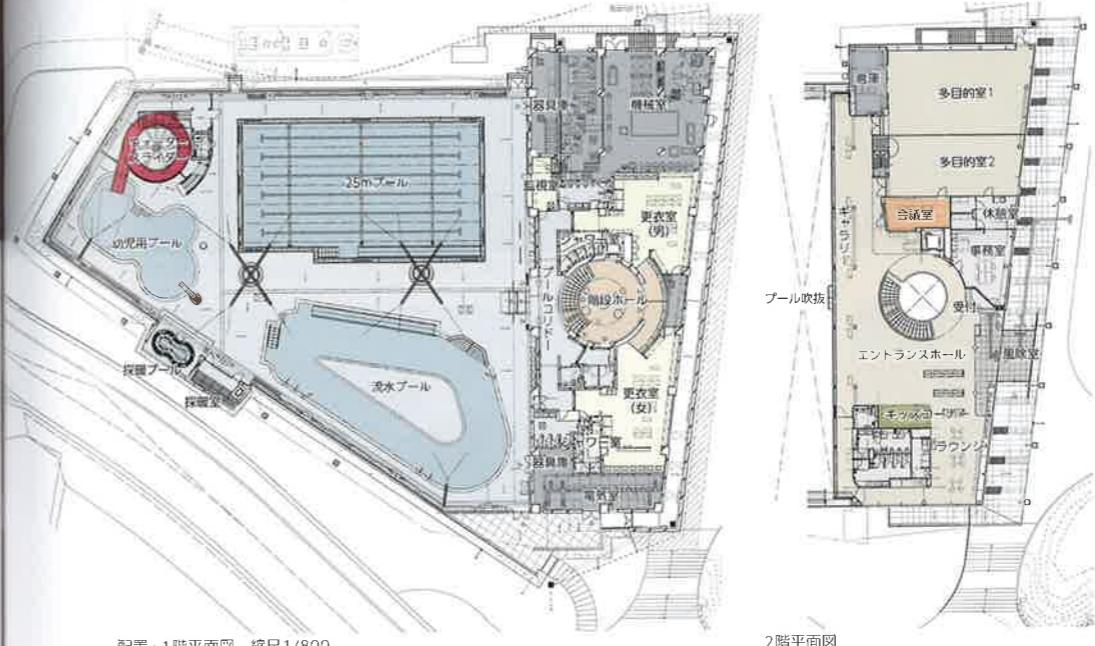
北側広場より外観を見る。2枚の屋根が異なる方向性を持ちながら重なり、建築のダイナミズムを感じる構成



外部も含め、照明計画を行い、夜間問わず地域のシンボルとなるようにデザインを行った



断面図 比例 1/800



配置・1階平面図 比例 1/800

2階平面図



上／ギャラリーよりプールを見る 中／階段ホール
下／トップライトから光を取り入れたエントランスホール



渡邊 宏……わたなべ ひろし

1976年東北大工学部建築学科卒業、同年同設計入社(1999年関・空間設計に社名変更)。現在、同社代表取締役社長



江田 紳輔……えだ しんすけ

1994年東北大工学部建築学科卒業、同年同設計入社(1999年関・空間設計に社名変更)。現在、同社取締役設計監理部長



八島 健介……やしま けんすけ

2010年日本大学大学院生産工学研究科修士課程修了。APOLLO一級建築士事務所を経て、2012～2017年関・空間設計(元所員)

【建築概要】
敷地面積 9,967.10m²
延床面積 3,573.73m²
構造規模 RC造、一部S造、一部木造 地上2階
設計期間 2014年1月～2015年2月
工期期間 2015年5月～2017年3月

撮影／川澄・小林研二写真事務所 浜田昌樹

協力会社

とび・土工・コンクリート工事	ヤスダ創建
型枠工事	安部建業
大断面集成材工事	藤寿産業
屋根工事	元旦ピューティ工業
屋根工事	鈴木金属工業
押出成形セメント板	ノザワ
金属工事	和田装備
軽鉄・内装工事	丸とワーグ
アルミ製建具工事	不二サッシ東北
金属製建具工事	オギノ
塗装	ヤマハ発動機